１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

ＳＳＫＵ

２０２１年度
秋号

お元気ですか？
イリアンソスです。

Page2 理事長の散歩道

Page3 特集「施設長インタビュー～活動センターかなえ～」

Page6 活動報告

Page7 ファミリーレター

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

連載　理事長の散歩道　㉕

「緊急事態宣言解除と共に」

社会福祉法人イリアンソス　理事長　磯部光孝

登山再開

やっと緊急事態宣言が解除されました。長かったです。しかし、第６波も必ず来ると専門家が警鐘をならしています。終わりのないコロナ禍で、どう生活していけばいいのか本当に考えていかなければならい状況です。

わたしは、緊急事態が解除されてすぐ気分転換のため登山ハイキングを実行しました。十月二日と九日と一日ハイキングですが連続していってきました。場所は、奥多摩の日原からの登山です。ここは、高尾山などと違って登山者は少なくどちらかといえばマニアックな人たちのコースで、このコースを歩いていても誰とも出会わない日もあります。九日のわたしのコースは、朝六時半まず日原鍾乳洞近くの一石山神社で登山の無事を祈り、すぐに急登に挑戦。約一時間は汗まみれ状態で登ります。六〇〇ｍの斜面を登ると一石山です。そこからは、なだらかな山道となり人形山、金袋山、すず坂の丸を過ぎて岩場を超えてウトウノ頭に達します。あまり展望はよくありませんが、手作りのウトウの絵が描いてある標識がありわたしの好きな場所です。なぜこの場所がウトウの頭と呼ばれるのか謎だそうですが、ウトウは海鳥の一種だそうです。そのあとは急坂を下りわかりにくいルートをまた登り長沢背陵に達します。ここは奥多摩の最深部といわれ、ほとんど登山者はなく標高一五〇〇ｍのなだらかな山道をえんえんと歩きます。途中、ログハウスのような西谷山避難小屋で昼食にしました。

この避難小屋は、とてもきれいで利用された方たちが掃除をして次の登山者が気持ちよく使用できるようにしています。そこからまた尾根を歩きつづけ、ブナやクリの木など深山の気配に浸ります。途中、山道の補修工事の現場がありました。石垣を積み重ね崩落した斜面を整地し歩きやすくなっていました。最近の大雨や台風の影響で山が荒れており、登山者のためにこんな最深部の場所での丁寧な工事をみると頭が下がります。

実は、日原から埼玉県境の登山道は、さまざまなコースがありました。しかし、二〇一一年の東日本大震災の地震で奥多摩方面もかなり揺れたため、相当山道の崩落があり主要な登山道が閉鎖されています。わたしは、震災の年から奥多摩周辺の登山をしていますが、年々登れる登山道が少なくなってきているように感じます。この辺りでは人気の川苔山も台風や大雨の影響で崩落が続き現在は閉鎖です。しかも閉鎖の看板だけでは、登山者が登山してしまうのか、登山口に警備員の方が立って監視していました。崩落した登山道の工事が終わるまでは、ルールを守っていきたいですね。登山はちょっとしたことで、命にかかわる事故に遭遇することがあります。そして、わたしたち登山者が楽しむために多くの人たちが山の管理をしているんだなと改めて実感しました。人気の山もいいですが、味わいのある山々もたくさんあるので、安全に登山を楽しんでいきたいと思います。

作：石原氏（初代理事長）
「チヂミザサ」

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

特集

施設長インタビュー　～活動センターかなえ～

今回の特集は、活動センターかなえの施設長、多田由美さんのインタビューです。福祉の仕事に就いた経緯や大切にしていることなどお聞きしました。

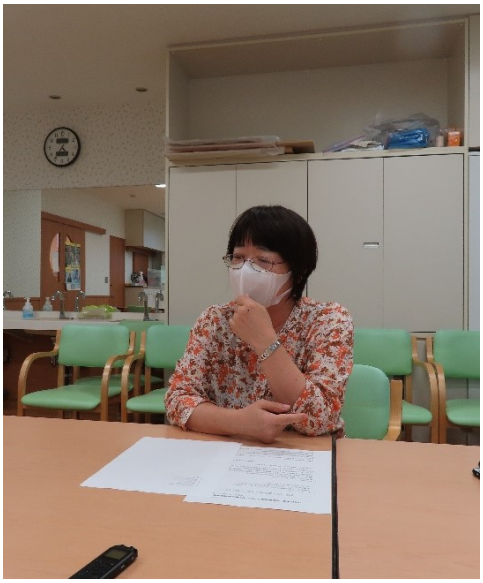
福祉の仕事に就く経緯

子供の時から動物が好きで獣医になるか学校の先生になるかどっちかにしようと思っていました。地元は京都府で学生時代はハンドボールに熱中していて、顧問の先生のようになりたいと思っていました。教員採用試験を受けながら養護学校の産休代替の教員をしていました。そこで初めて障害のある人と出会いました。毎日、散歩に行ったり、畑仕事をしたり、土運びをしたりしていました。そんな日々がとても楽しくて、充実していました。継続して教員採用試験も受けましたが、学校の活動が楽しくて気持ちが勉強へ向かなかったです。そんな時に養護学校と関わりのあった作業所で就職しないかって言ってくれる人がいました。それが私と作業所の初めの出会いです。

教えられたこと

養護学校で働いていたときに、いわゆる強度行動障害の方々と活動していて、今でもよく覚えている出来事があります。散歩の途中の道端にお地蔵さんがあって、そこにお供え物が置いてありました。一緒に散歩をしていた方がお供え物に手を伸ばすことがよくあり、食べようとしていると思って必死に制止していました。ある日、いつものように止めて

いましたが、ついに力負けしてしまいました。次の瞬間、その子がお供え物の倒れているお茶のコップを直したのです。もっと余裕を持って、その人を信頼する大切さを教えてもらいました。結果的に食べたとしても、そこから考えられることや気づきもあったと思います。支援者目線で先回りして「駄目だよ」て言ってしまったり、「こっちにしたらいいよ」と言ってしまったりしがちですが、その人は何をしたいのかな?という気持ちを持たないといけないですね。そんなことを学んだ経験でした。養護学校時代は大きな経験をしてきたと思っています。



イリアンソスとの出会い

　地元の京都の作業所に就職をして、日々の支援やきょうされん運動など夜中まで必死に仕事をしていました。夫がきょうされんの全国事務局で働くということになり東京に来ました。きょうされん専務理事の藤井克徳さんに紹介して頂いてイリアンソスのぞみの家に就職することになりました。東京に来たことも1～2回しかなくて、当然知り合いもいなくて、戸惑うことも多くありました。当時、のぞみの家は無認可から認可になった時代で環境も大きく変わっていく中で職員の想いや考えも様々だったと思います。無認可からの経験を土台にしながら少しずつ運営のこと支援のことを積み重ねていったのだと思います。

活動センターかなえ

　東久留米市では、いわゆる障害の重い人達の活動の場がなくなってきました。のぞみの家は定員に達してしまって新たな場所が必要だということが施設代表者会で議論になったそうです。そのような状況の中で廃園になった幼稚園の2階を使用して障害のある方の活動をしてほしいと市から依頼がありました。これが活動センターかなえの開所した経緯です。施設長選任経緯も紆余曲折があり、私が務めることとなりました。当初は利用者さん6人程度で職員も少なく、日々、ゆったりと活動していたと記憶しています。その後、利用者も増えてきて建物の老朽化も目立ってきていたので親御さんたちと協力して請願署名をして今の建物に建て替えました。利用者さんと接することは自分自身の仕事の糧になりますが、事務的な業務も利用者さんを支える大事な仕事です。建て替えに向けた国庫補助の申請など膨大な資料作成に追われて、頭痛薬が手放せない日々でした。そういう経験をする中で、本当に人生って勉強だなとつくづく思いました。今でも人生勉強だなと思うことは山のようにありますけど…

困難な状況になった時に想うこと

　壁にぶつかったときは養護学校で働いていた経験が活きています。利用者さんに教えてもらうことが多いです。仕事と家庭でオン／オフの気持ちの切り替えもできますが、出掛けた先で空き地や空き家が目に入り、「あっ、ここ作業所にできるかな?」とかそういうのを思ってしまうこともあります。東久留米市役所1階で運営している「かふぇてん」で提供しているうどんも休みの日に食べに行った時に思いつきました。かなえの駐車場のザクロのオレンジの実を見ていても、染め物をして自主製品ができたらいいなと思ってしまいます。パソコンでこうしているよりも合っていると思います。

仕事の魅力

　そういう意味では現場の職員の仕事は多岐にわたり大変だと思います。職員一人一人が楽しいと思って仕事ができないといけないと思います。やっぱり現場の仕事は花形だと感じます。パソコン

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

仕事が連続したときに活動の様子を覗きに行くと、利用者さんが「多田さんレクに行こう。」って（気を遣って言ってくれていると思いますが）とても嬉しいです。「行こうね」っと返事したりして皆に気分転換させてもらいながらまた仕事ができてるっていう毎日だと実感しています。

職員に期待すること

障害のある人を軸に私たちは考えないといけないですね。戻るところは利用者さん中心の考えです。内々の批判になる事もあるけれど、それはそれで大事なこともありますが、私たちが向き合うところは、今の制度や差別や偏見のないように社会を変革していくことだということを根本に持っておかないといけないです。まだまだ、福祉の仕事は身分的にも低くて、給与が低い実態もあります。自分たちの仕事をとして専門性を向上させていくことが福祉分野の地位向上にもつながっていくと思います。結果として障害のある人の生活が豊かになっていくのではないでしょうか。

もう一つは失敗を恐れないことです。これは若い人や新しく入職してきた人たちの特権だと思います。どんどん失敗していくことが大切です。怒られたりもするかもしれないですが、積み重ねていかないと成長はないと思います。野球の野村監督の言葉で「失敗と書いて成長と読む」というのがあって、まさにそうだなと思います。これからイリアンソスは利用者さんも増えて、職員も増えていくと思います。是非いっぱい失敗して成長していって自分の力にしていってほしいです。

仕事で大事にしていること

障害のある人達、言葉が上手く伝えられない人達が何を思っているのか？どういう風に感じているのか？職員としてはそこに思いを寄せていくっていうのは大事なことのような気がします。行動の背景にあるものを利用者中心に考えていく。例えば外に行きたくない利用者さんがいるとして、なんで行きたくないのか？違うことがしたい？何かが気になる？そういう事に思いを寄せていくっていうのが私たちの仕事の楽しさであり難しさでもあると思います。そういう事を大事にしているかもしれないです。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

法人全体家族会

法人全体家族会を開催しました。引き続き感染症対策を実施しながらの開催となりました。理事長あいさつに続き、事業報告と事業計画の説明。各事業所から写真を交えながらの活動報告をおこないました。新入職員からの挨拶もおこないました。ご家族からは、近況報告や法人への要望など発言していただきました。

感染症の状況もあり少数の参加ではありましたが様々なご意見を頂戴することができました。引き続き、法人運営の話や現場から活動の報告ができる場としていきたいと思います。

職員研修

今年度に入職した職員の研修について報告します。４月に座学と８月に法人内の施設見学をおこないました。施設見学の目的は、法人全体の事業と利用者の姿を知ることにあります。コロナ禍では、行動に制限があり事業所間の交流も薄くなってしまいます。法人内であっても、他事業所の利用者や活動のことで知らないことも多くあり、互いを知る機会となりました。

今後も感染状況を考慮しながら事業所間の交流ができるようにしていきたいと思います。

１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

ファミリーレター

新連載のファミリーレター、第二回目はのぞみの家所属、生活寮そら開所当時から入居されている渡辺行教さんのお母様、渡辺美枝子さんにお話を伺いました。渡辺さんは数名のお母さん達と障害のある子達が日中過ごせる場所、いつまでも地域で暮らせるために、「のぞみの家」を立ち上げたお一人でもあります。

新潟の病院にて三二三〇ｇで生まれた行教さん、お母さんのお腹にいた八カ月辺りで逆子とわかり逆子を直す体操を色々しましたが逆子で出産となりました。初産でもあり時間はかかると言われましたが、そのうち破水。帝王切開になる寸前で生まれました。その時へその緒が二重に巻かれていて、すぐに産声は聞こえませんでした。「え？すぐ泣かないの？テレビではよく生まれたら「おぎゃあ、おぎゃあ」と言うのに。どうして鳴き声が聞こえないのか、心配しながらも考えていた時にようやく十三分後「ふわぉ～ふわぉ～」っていうような鳴き声が聞こえ、行教さんが誕生しました。脳性麻痺でしたが、内臓に疾患はなく元気な男の子でした。出産後は脳性麻痺にみられるアテトーゼ（体をよじらせる不随意運動）で緊張が強く首も足も突っ張っているので、押さえても母乳を飲む事が難しくお乳を絞って哺乳瓶で飲んでいました。幼児期ではおもちゃも飽きるし、テレビも興味を示さないので毎日東久留米のイトーヨーカ堂に通い人混みにいることで刺激がありました。目と耳が良く人も好きで周りを良く見ている子でした。近所の子を我が家に呼んで遊ぶけど、すぐに飽きて外に行ってしまう…そうだ、行教に兄弟を作ってあげようと思いました。産むことが怖かったけど、医者に「怖がるより産んでから考えればいい」と言われ決心し妹が二人できました。大変、というよりも体が二つ欲しいと当時はいつも思っていました。そして都立小平養護学校小学部・中学部・高等部で学生時代を過ごし「のぞみの家生活訓練所」、その後現在の「のぞみの家」に通所しています。

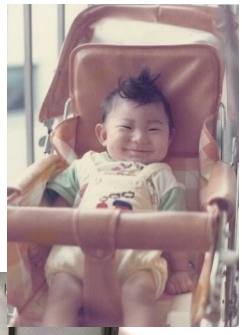
行教さんが二八歳の時に生活寮そら開設され入居されました。お母様にいくつかお聞きしました。

行教さんが寮に入居されることは寂しくありませんでしたか？

寂しいと言う気持ちよりも、行教がいろんな人に関わってもらい生きていけることが嬉しかった。喜びでした。そのために私が出来る事は何かを考えました。

行教さんと関わっているスタッフに伝えたいことはありますか？

皆さんよくやってくれているし、行教も頼りにしている。楽しい様子もみられる。新しいスタッフがきても一から始まるけどしっかり受け入れていると思う。スタッフに支えられて、多くの仲間と共に元気に活動し、しっかり生活している行教を見て嬉しいです。インタビューの最後にお母さんは「行教がいて二人の娘を育てた。三人が宝です。」と満面の笑みを浮かべていました。



１９９８年１０月０９日　第三種郵便物認可　　（毎月３回８の日発行）
２０２１年１１月２日発行　ＳＳＫＵ　　増刊通巻　７１５５号

ご寄付をいただきました（７月～９月末まで）
法人各施設にご寄付をいただいております。誠にありがとうございました。
いただいたご寄付は法人各施設の充実や、将来構想の資金として大切に使わせていただきます。

藤田 祐子 様　　小寺 和信 様　　イリアンソス後援会 様

ありがとうございます。

社会福祉法人イリアンソス

●のぞみの家
東久留米市下里２－７－１８
０４２－４７３－９０２７
０４２－４７３－９０３６（F）
nozomi@iriansos.or.jp

●活動センターかなえ
東久留米市南沢２－２０－５１
０４２－４５２－６４０５
０４２－４５２－６４１５（F）
kanae@iriansos.or.jp

●なかまの家
東久留米市中央町２－１－４７
０４２－４７２－７１３０
０４２－４４４－３７２２（F）
nakama@iriansos.or.jp

●生活寮「うみ」「そら」
東久留米市下里４－２－７
０４２－４７６－３４００(F兼)
sora@iriansos.or.jp

●生活寮「にじ」「かぜ」
東久留米市下里５－１０－１０
０４２－４２０－９９４３
kaze@iriansos.or.jp

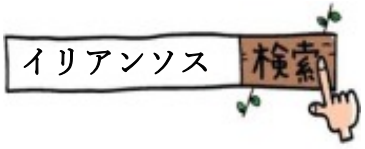
●このみ
東久留米市幸町３－８－２３
０４２－４７３－９６６７

～編集委員のつぶやき～
イリアンソスに入職し、半年が経ちました。広報部会の担当になり初めてのことばかりですが頑張っていきたいと思います！同じように活動センターかなえでの仕事も頑張っていきます。

活動センターかなえ　鈴木友佳里

《発行》
特定非営利法人障害者団体定期刊行物協会
〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷 3-1-1
ヴェルドゥーラ祖師谷 102 号室
Tel 03-6277-9611/Fax 03-6277-9555
《企画、編集》
社会福祉法人　イリアンソス
〒203-0043 東京都東久留米市下里 2-7-18
Tel 042-473-9027/Fax 042-473-9036
《編集委員》
磯部光孝・鈴木友佳里・多田由美・花形優・疋田史江
福田恵・松森大輔・吉坂慧佑・吉田遊佑

※ホームページからもご覧いただけます。



定価100円

表紙の写真（のぞみの家）
「芸術の秋」ということで、日頃から取り組んでいる創作活動のようすです。来年には作品展も予定しています。

挿絵：くらげ（ペンネーム）